本当にやりたい事を選択しましょう

独立行政法人 産業技術総合研究所 健康工学センター
生体ナノ計測チーム主任研究員
片岡 正俊 かたおか まさとし

産総研メンタルコミットロボ

自分は徳島県出身で、1980年歯学部入学、その後に博士課程を経て歯学部で歯周病の臨床医をしていましたが、米国ニューヨーク州での2年間の留学期間を除いて殆ど徳島大学歯学部で過ごしていました。ここまではごく普通の歯学部出身者の選択肢の一つでしょう。そして、今まで仕事について2回、大きな選択をしてきました。周りの人からは結構「大胆な！」と言われてきましたが、そんな経験が少しでも役に立つかなと考え、思いつくまま書かせてもらいます。

現在は、高松市にある独立行政法人産業技術総合研究所（産総研）健康工学研究センターの主任研究員として（別に歯科医師としてではなく）、H18年4月から働いています。産総研で何？と思われる方も多いと思いますが（と言う本人も数年前まで知りませんでした）、最初に紹介させていただくと経済産業省の所管研究組織で、東京本部の他つくば地区を筆頭に全国に9箇所の研究センターがあり約2500人の研究者と3000人のポスドクがいる日本最大の独立行政法人の研究機関です。ただし、この巨大な研究組織の中で歯科医師ライセンスを持つのは自分一人のようですが。ここ健康工学センターでは、健康予知診断技術の開発を大目標の一つとしてナノテクノロジーを活用して日々研究を行っています。

歯科医師から産総研というと違和感があるかもしれませんが、自分にとっては良い選択だったと思います。10年以上臨床の現場で居ましたが、「研究がしたい」という欲求に負けて歯学部を離れ、ゲノム機能研究センター篠原康雄先生の下で3年間ほど研究中心の生活を送らせて頂きました。その時の経験が大きかったのですが、新たにナノバイオの研究に関わることができ、その面白さに惹かれるうちにこの世界にどぶりと漬かるようになった次第です。研究と言うと難しく感じるかも知れませんが、子供の遊びと同じで物事に対して「これ何やろ？何でやろ？」「こんな事出来たらいいな」と感じるマインドが基本と思います。自分の場合は、最初は臨床の場を選びましたが、結局こんな気持ちが強すぎて研究中心の道を選び直しました。

昨今は研究環境が厳しくなる一方で、大学時代もそうでしたが研究をするには先立つ物が必要で、ここ産総研でも状況は全く同じです。外部資金獲得のために、少しオーバーですが東奔西走しています。でも自分がやりたいことをやるためにしていますから、辛くないですね。今は、ポスドク二人と自分の計3人のちっちゃなグループですが、これからどんな仕事を仕上げて世間に出せるか、どこまで大きく出来るか、自分自身が楽しみです。まっさらなキャンパスに自分の好きな絵を描くようなものです。

ライセンスを取ったからずっとその世界に居なければならないわけでなく、何時でも色々な選択肢があります。一度、自分が本当にやりたい事を考えてみませんか？ また産総研について興味をもたれる方がおられればHP（http://www.aist.go.jp/index_ja.html）で確認してみて下さい。結構、魅力的な仕事をしている所と思います。

略歴

1986年　徳島大学歯学部歯学科卒業
1990年　徳島大学大学院歯学研究科修了（歯学博士）
1990年　徳島大学歯学部附属病院助手 第二保存科
1991年　徳島大学歯学部助手 歯科保存学第二講座
2000年　徳島大学歯学部附属病院講師
2002年　徳島大学ゲノム機能研究センター遺伝子発現分野 助教授
2006年　独立行政法人 産業技術総合研究所健康工学研究センター 主任研究員